

様式【学校評価資料】

総社小学校

学校経営目標	具体的計画	令和2年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、総社つ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	○周りの人への優しさ 児童:84.8p ○周りの人の優しさ 児童:86.7p ○思いやり 保護者:83.6p 教職員:81.5p	B	・学年に応じた思いやりについて、道徳科の学習や学級活動の時間を中心に、さまざまな場面をとらえて指導する。教職員が意識して児童にフィードバックする。 ・帰りの会や帰る前などに、必ず良い行動をお互いにほめる活動を取り入れる。(今日のキラキラさん、よかったこと見つけなど)児童に振り返って価値づける活動を大切にしている。	○周りの人への優しさ 児童:85.9p ○周りの人の優しさ 児童:87.6p ○思いやり 保護者:84.0p 教職員:82.6p	B	・学年に応じた思いやりについて、道徳科の学習や学級活動の時間を中心に、さまざまな場面をとらえての指導を継続する。教職員が意識して児童にフィードバックする。 ・帰りの会や帰る前などに、必ず良い行動をお互いに認めるなどのPBIS活動の充実を図る。児童に振り返って価値づける活動を大切に、目に見える取組になるように工夫する。	・自己評価は「B」であるが、「A」が妥当である。 ・児童は達成基準を達成しており、保護者も微増している。 ・児童の周りの人の優しさを感じる心が育っている様子がうかがえる。お互いの良い行動を認め合うPBIS活動をさらに進めてほしい。
	②「すきだ総社小学校運動」ですすんで挨拶、きちんと整頓、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。 (総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	②進んであいさつができていているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	児童:80.0p 保護者:78.4p 教職員:86.5p	B	・地域の方への感謝の気持ちを伝える。 ・週目標に「地域でのあいさつ」を入れる。あいさつ運動の推進を具体的に児童に示すことが大切。 ・場所や相手、また場面でのいろいろなあいさつの仕方(種類)を児童に知らせる。あいさつをしたら、にこっと笑うとか会釈をするとかができるようにする。	児童:84.2p 保護者:79.9p 教職員:87.5p	B	・週目標に「地域でのあいさつ」を入れ、地区別の反省カードなどを活用し、地域でのあいさつの推進を図る。 ・あいさつ運動の推進を具体的に児童に示すようにする。 ・場所や相手、また場面でのいろいろなあいさつの仕方(種類)を児童に知らせる。あいさつをしたら、にこっと笑うとか会釈をするとかができるように指導を継続する。	・自己評価は適切である。 ・児童の達成基準の達成までもうひと頑張りしてほしい。 ・「地域でのあいさつ」の中で、特に登下校を見守ってくださっているボランティアの方に、感謝の心を込めて元気に挨拶できるように指導してほしい。ボランティアの方にアンケート(聞き取り)してみるとフィードバックがしやすい。
2 健康・体力づくりの推進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーマディアの取組を推進する。	③感染症対策として手洗い・うがい、マスクの着用、換気を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:87.4p 保護者:87.3p 教職員:90.4p	B	・校内放送や掲示物等で継続して指導する。手洗いとマスクの着用。換気については、新しい生活習慣として身に付くように粘り強く指導する。 ・区切りとなる時期に、もう一度意識なおすように、指導を繰り返す。	児童:91.4p 保護者:86.5p 教職員:90.9p	B	・状況を見ながら、継続して感染症対策を行う。新しい生活様式として手洗いとマスクの着用、換気などが身に付くように、校内放送(1日3回)や掲示物等で粘り強く指導する。 ・区切りとなる時期に、もう一度意識なおすように、指導を繰り返す。	・自己評価は「B」であるが、「A」が妥当である。 ・児童は達成基準を達成しており、定着が図られている。 ・気を緩めることなく、引き続き対策を行っていきたい。
	④目標を持って主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:79.5p 保護者:76.1p 教職員:78.8p	C	・メディアコントロール週間を中心に、粘り強く声掛けや啓発に取り組む。 ・メディアとの付き合い方について、個人で目標を決めているので、目標を意識するような声掛けをしていく。	児童:80.9p 保護者:76.4p 教職員:79.0p	B	・メディアに関する日常的な取組を継続して行う。メディアコントロール週間を中心に、粘り強く声掛けや啓発に取り組む。 ・家庭との連携に向けて、睡眠・メディアとの付き合い方等について参観日の授業や講演会、懇談、学年通信で取り上げるようにする。 ・質問紙の項目(特に保護者用)を検討する。	・自己評価は適切である。 ・児童の意識は高まってきており、ルールが定着してきていると考えられる。中学校区の小中学校で連携して取り組んでいる成果が出ている。 ・メディアは保護者の考えが大切なので、保護者への啓発についても引き続き行ってほしい。
	⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:80.9p 保護者:75.7p 教職員:82.2p	B	・学校での運動や遊びの様子を家庭に伝えて、家庭との連携を図る。 ・委員会等を中心に、体づくりなどの具体的なメニューを提案し、体を動かす楽しさを伝える。 (チャレンジランキング・体づくり・ラジオ体操など)	児童:84.5p 保護者:79.1p 教職員:78.9p	B	・業間休み・昼休みの運動場の全校使用を継続し、進んで運動する機会を増やすように声掛けをする。(感染症の状況に応じて、分散使用も検討する。) ・委員会から提案のあった「運動がんばる週間」を設定し、体を動かす楽しさを味わえるようにする。	・自己評価は適切である。 ・児童の意識は高まってきている。運動場でしっかり運動させてほしい。 ・教員が子どもの様子をどうとらえるかで評価が変わってくるので、声掛けで外に出る児童のとらえ方等を共通理解して評価してほしい。
3 確かな学力の育成	【すすんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。	⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が90ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】	児童:80.2p 教職員:81.4p	C	・書く活動の重要性を教職員で再確認し、授業の中で書く時間を確保する。 ・学習の振り返りの視点を共通理解して指導する。	児童:83.8p 教職員:81.4p	C	・年度当初に「自分の考えを書く」「振り返りを書く」等の書く活動について共通理解を図る場を設け、全教職員で足並みをそろえて取り組むようにする。 ・授業の中で書く活動を積極的に取り入れ、時間を確保する。 ・学習の振り返りの視点を共通理解して指導する。	・自己評価は適切である。 ・書く活動を学校評価に加えることにより、教員が目標をもって取り組んでいるので、学力調査に成果として表れている。 ・今後も引き続き取り組んでほしい。
	⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	⑦国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が80%以上であるという回答が80ポイント以上である。 (教職員) 【学力向上】	教職員:78.9p	C	・毎週火・木曜日の朝の学習(基礎的内容)と水曜日の総チャレ(発展的内容)の時間の充実を図り、学年で統一した取組を進める。	教職員:75.0p	C	・新学習指導要領の求める力について校内研修等で全教職員に理解を促したり研究授業を進めたりして、授業改善を目指す。 ・基礎的な内容理解が不十分な児童には個別支援を行うとともに、家庭との連携を進める。 ・発達段階を考慮して、低・中・高学年で達成基準を検討する。(例えば、低学年80%・中学年75%・高学年70%など)	・自己評価は適切である。 ・基礎的な内容理解が不十分な児童に対する個別支援が大事で、あらゆる手段を工夫して格差を放っておかないで底上げを図ってほしい。 ・達成基準を学年別で検討するのも妥当である。教員も児童もモチベーションが上がるような取組にしてほしい。
	⑧家庭で学年×10分+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【学力向上】	⑧家庭で学年×10分+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【学力向上】	児童:82.4p 保護者:74.5p 教職員:74.2p	B	・宿題+自主勉強で、目標時間が達成できるように指導する。 ・児童が目標時間を達成しやすいように、宿題の量などを学年に応じて調整する。	児童:83.8p (保護者:73.4p) 教職員:82.9p	A	・今年度の取組を継続して行う。 ・宿題+自主勉強で、目標時間が達成できるように指導する。 ・児童が目標時間を達成しやすいように、宿題の量などを学年に応じて調整する。	・自己評価は適切である。 ・児童と教員が頑張っている。コロナ禍で家にいる時間が増えたことが影響しているか。 ・中学校へのつなぎを意識して取組を進めてほしい。
4 地域とともにある学校づくり	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。	⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員)	保護者:83.6p 教職員:81.3p	C	・ホームページ担当を中心に、タイムリーなホームページの更新を行う。 ・コロナ禍での行事の変更や日程の変更等について、決まり次第正確な情報を発信するように努める。	保護者:84.5p 教職員:82.0p	C	・各種の便りやホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。ホームページ担当を中心に、タイムリーなホームページの更新を行う。 ・保護者と普段からの電話や連絡帳、家庭訪問等による連絡をとり、連携を図る。	・自己評価は「C」であるが、「B」が妥当である。 ・情報の受け手である保護者のポイントが上がっている。 ・引き続き努力を続けてほしい。
	⑨きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員)	児童:87.2p 保護者:85.0p 教職員:89.7p	A	・コロナウイルス感染症対策と熱中症予防の両方を踏まえて、学年下校の方法を定着させて、安全な下校ができるようにする。 ・生徒指導部を中心に、学校生活において気になったことを迅速に話し合い、その都度対応できるようにする。	児童:87.5p 保護者:85.2p 教職員:87.3p	A	・学年下校を定着させ、学校支援ボランティアと協力して、登下校の安全確保に努める。 ・校内のきまりやルールを教職員で共通理解を図って指導し、きまりやルールを守って安全に生活できる児童を育成する。	・自己評価は適切である。 ・登下校の見守りにたくさんのボランティアが協力してくださっている。児童の安全確保のための取組を引き続き行ってほしい。